



真岡コンピュータ・カレッジ運動場跡地

**芳賀広域ごみ処理施設関係の
地域振興費と周辺環境整備費は**

大根田(悦) 議員 芳賀地区広域

ごみ処理施設に係る大内六地区に対する芳賀地区広域行政事務組合の地域振興費一億千万円及び栃木県環境保全公社の補助金を活用した周辺環境整備事業費二億円の対応状況について伺いたい。

市長 地域振興費は、関係六地区

の地域振興を図るための費用であり、芳賀地区広域行政事務組合がソフト事業として交付する一億千万円と栃木県環境保全公社の補助金を活用して周辺環境整備を行うハード事業費二億円が計画されている。この両事業は地域振興費交付要領及び周辺整備事業助成実施要領に環境保全協定の締結が条件として定められている。

環境保全協定締結の進捗状況であるが、芳賀地区広域行政事務組合では関係六地区のうち、上大田和、下大田和、下鷺谷、下籠谷の四地区から協定締結の了承が得られている。残りの堀内、上鷺谷の二地区については、引き続き話し合いや協定内容の説明を行い、了承が得られるよう取組んでいると

市有地の中では旧真岡コンピュータ・カレッジの運動場が適合するものであった。この用地は、旧真岡コンピュータ・カレッジに隣接した運動場であるが、カレッジの閉校後は利用が少なく、現在は震災がれきの受入場所である。総合運動公園整備に伴い、今後は運動場として活用する予定がないため、本市として再生可能エネルギーの一つである太陽光発電事業に寄与することは、真岡市環境基本計画に掲げた方針に合致することから、メガソーラーの候補地とすることを決定した。

芳賀地区広域ごみ処理施設と関連した事案ではないので、この件を大内環境保全協議会に説明はしていない。

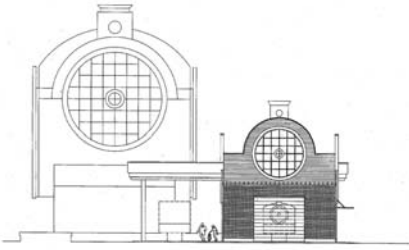
ころである。また、協定締結の手法や地域振興費の交付等について、大内地区環境保全対策協議会役員並びに関係六地区の区長と協議が進められている。

**SL展示施設と
市内観光資源との回遊性は**

野沢議員 SL展示施設を整備し

拠点とするとのことだが、観光客へのサービス向上、市民への交流の場の提供、にぎわいの創出には、地元との協議、連携が重要である。現在の状況はどうか。また、市内観光資源との回遊性について伺う。

市長 昨年十一月に地元自治会、



(仮称) SL展示館完成イメージ図

真岡駅前通り商店会、真岡鐵道株との意見交換会を開催した。また、今月には地元集会で、施設整備に関する要望を伺ったところである。今後も協議を継続し、地元との連携を図りながら整備していく。

市内観光資源との連携は、現在市内観光施設周遊バスを年四回運行し、また、駅からハイキングを年二回実施している。さらに、SL展示施設を整備することにより、真岡駅の魅力が増し、今後整備する予定の久保邸もあわせると、中心市街地でも魅力のある周遊コースになる。これらを踏まえ、多くの方に本市を訪れてもらえるよう観光ルートをPRするとともに、観光施設や関係機関、団体との連携を強化していきたい。

あわせて、真岡駅と中心市街地内にある観光施設を公共交通でつなぐことにより、市外から訪れる皆様にも、長い時間滞在していただけるようにしたいと考えている。

**計画的な道路改良の推進と
未舗装道路の早期整備を**

野沢議員 子どもたちの安全確保

や災害発生時における緊急車両等の円滑な通行の確保などの観点からも、安心して通行できる道路の整備は不可欠である。現在の道路改良状況を伺う。また、二宮地区では土地改良による整備が概ね完了し、道路の舗装が待たれている状況にある。今後、早期に整備を進めていただきたい。

建設部長 学校周辺の通学路及び

集落内生活道路の整備は、地域の合意形成が不可欠なことから、区長からの申請に基づき実施しており、必要性、緊急性、事業効果等を総合的に評価し、地域間のバランスを考慮しながら順次事業化を図っている。道路改良要望は、現在百四十四件、延長約四十五・八キロメートルで、平成二十三年度は十九件、延長約八・二キロメートルの道路改良事業を実施した。土地改良整備地区内の道路舗装については、道路改良同様に必要な、緊急性、事業効果、地域間のバランスなどを総合的に検討し、区長の意見を聞きながら選定している。道路の改良及び舗装は要望も多く、これらに応えるには多くの費用と時間を要すが、今後も限られた予算の中で、効率的な整備に努めていく。